

今月の特集関連本

本欄で紹介した書籍は、読者アンケート (p.1564) に
ご回答いただいた方に、抽選でプレゼントいたします。



『訪問看護と介護』22巻 11号

在宅現場の「暴力」

その実態と、私たちにできること

本体 1,400 円 + 税 / 医学書院 / 2017

訪問看護師の 2 人に 1 人が、利用者・家族から暴力を受けたことがある。そうした実態が、本特集ご執筆の林千冬氏 (p.1516)・藤田愛氏 (p.1520) の調査により明らかになりました。在宅現場は「密室性」が高く、また医療者が単独で訪問することも多いので、暴力を生じやすく対策ににくい状況があるのです。加えて、本特集にて椿恒雄先生は、「必然的な『見逃し』を生むメカニズム」を看破しています (p.1502)。

では、このような構造的に暴力が存続しやすい状況のなかで、訪問看護師らへの暴力やハラスメントについてどう考え、どう対策をとればよいのでしょうか？最新の『訪問看護と介護』で特集しました。



ユマニチュード入門

本田美和子、イヴ・ジネスト、ロゼット・マレスコッティ＝著

本体 2,000 円 + 税 / A5 判・148 頁 / 医学書院 / 2014

暗闇から突然伸びてきた手が、自分の服を脱がそうとしている——。認知機能の低下した人にとって、それはケアという名の“暴力”なのかもしれません。それに対抗して行使した暴力は、果たして“暴力”なのか……。

ケアを拒否して暴れる認知症の人が、まるで“魔法”にかかったように穏やかに、ケアを受けてくれるようになるという「ユマニチュード」。ユマニチュードは、ケアを暴力にしてしまわないための技法とも言えます。ケアはケアとして届けたい！



あらゆる状況に対応できる

シンプル身体介助術

[DVD・Web 動画付]

岡田慎一郎＝著

本体 2,600 円 + 税 / B5 判・128 頁 / 医学書院 / 2017

これまでに 2,000 回以上の身体介助技術講習を行ってきた著者が、徹底的現場主義に基づいた身体介助技術をシンプルに紹介する。Scene1～4 では、「相手との関係の 3 原則」から個々の技術に共通の技法を、Scene5 では、「叩く」「ける」「噛みつく」など、認知症高齢者などで比較的起こりやすい「暴力」への対応法もとりの上げた。Q & A 方式で 38 の介護技術を、動画と写真を用いて詳しく解説。